

**2019年度 第3四半期**  
(2020年3月期 第3四半期)

**短信補足資料**

2020年2月4日

**不二製油グループ本社株式会社**

## 目次

1	連結 損益概要(3Q : 3ヶ月実績)	…	3 ページ
2	連結 損益概要(3Q累計)	…	4
3	連結 貸借対照表	…	5
4	連結 キャッシュ・フロー	…	5
5	連結 指標	…	6
6	2019年度通期業績予想	…	7
7	設備投資額・減価償却費の推移	…	8
8	配当の推移	…	8

# ◆ 1. 連結 損益概要(3Q : 3ヶ月実績)

## 第3四半期 (3ヶ月実績)

(単位：億円)

		18年度 3Q	19年度 3Q	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	植物性油脂	276	250	▲26	▲9.5%
	業務用チョコレート	191	449	+258	+135.5%
	乳化・発酵素材	234	210	▲24	▲10.3%
	大豆加工素材	94	90	▲4	▲4.1%
	合計	795	999	+204	+25.7%
営業利益	植物性油脂	27	29	+2	+8.9%
	業務用チョコレート	23	33	+10	+42.4%
	乳化・発酵素材	14	13	▲1	▲9.1%
	大豆加工素材	10	10	+1	+5.4%
	連結調整・ グループ管理費用	▲9	▲9	▲0	—
	合計	65	76	+11	+17.6%
営業利益率	8.1%	7.6%	▲0.5pt	—	
経常利益	61	69	+8	+12.4%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	46	61	+14	+30.8%	

※欧州は2019年度より植物性油脂事業と業務用チョコレート事業に分割。18年度は遡及修正済み。

### ■ 営業利益

#### <ポイント>

乳化・発酵素材事業は調製品の不調により減益となったが、植物性油脂事業での採算性の向上、業務用チョコレート事業での日本の堅調な推移、Blommerの連結等により全社では増益となった。3Q3ヶ月の営業利益は過去最高となった。

#### <セグメント別>

##### 植物性油脂

日本でのチョコレート用油脂の拡販による増加、また原料が安定的に推移したことによる東南アジアでの採算改善により増益。

##### 業務用チョコレート

ハラルドでの拡販による数量増、日本での菓子向けの堅調な販売、Blommerの連結により増益。

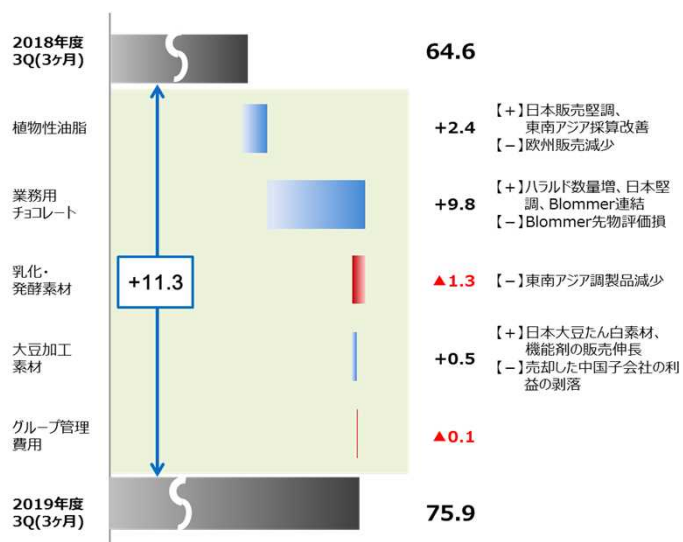
##### 乳化・発酵素材

東南アジアでの調製品事業の減収、中国でのパン市場向けマーガリン等の数量減により減益。

##### 大豆加工素材

前年度に売却した中国子会社の利益の剥落はあったが、日本での大豆たん白素材、機能剤の増加により増益。

## 2019年度第3四半期 (3ヶ月) 営業利益増減分析



### ■ 親会社株主に帰属する四半期純利益

投資有価証券売却益の計上より増加

	FY18 Q3	FY19 Q3	増減額	要因分析
業務用チョコレート	23.2	33.1	9.8	
日本	20.0	23.1	3.2	菓子向けが堅調に推移
米州	▲0.2	6.0	6.1	
・Blommer、ハラルド			9.4	Blommerの連結により増益。 ハラルドは、レアル安などによる採算性悪化があったものの、販売数量の増加により増益。
・Blommer先物評価損益影響額			▲3.3	
東南アジア	2.4	2.4	0.0	
中国	0.2	▲0.1	▲0.2	
欧州	0.7	1.6	0.9	
連結調整	0.1	0.0	▲0.1	

## ◆2. 連結 損益概要(3Q累計)

### 第3四半期累計

(単位：億円)

	18年度 3Q累計	19年度 3Q累計	前年同期比		
			増減額	増減率	
売上高	植物性油脂	805	736	▲69	▲8.6%
	業務用チョコレート	532	1,293	+760	+142.9%
	乳化・発酵素材	654	617	▲37	▲5.6%
	大豆加工素材	275	269	▲6	▲2.3%
	合計	2,267	2,915	+648	+28.6%
営業利益	植物性油脂	61	73	+12	+19.4%
	業務用チョコレート	67	57	▲10	▲15.2%
	乳化・発酵素材	29	32	+4	+12.6%
	大豆加工素材	27	31	+4	+16.0%
	連結調整・ グループ管理費用	▲25	▲27	▲3	-
合計	159	166	+7	+4.4%	
営業利益率	7.0%	5.7%	▲1.3pt	-	
経常利益	156	151	▲5	▲3.4%	
親会社株主に帰属する四半期純利益	90	120	+30	+33.5%	
EBITDA	240	285	+45	+18.7%	
ROE	7.6%	10.2%	+2.7pt	-	
営業キャッシュフロー	133	202	+69	+51.8%	
投資キャッシュフロー	▲136	▲118	+18	+13.3%	
フリーキャッシュフロー	▲3	84	+87	-	
NET有利子負債	542	1,366	+824	+152.2%	
NET運転資本	586	817	+231	+39.4%	
NET有利子負債/EBITDA	1.7倍	3.6倍	+1.9倍	-	
CCC(キャッシュコンバージョンサイクル)	108日	118日	+10日	-	

※欧州は、2019年度より植物性油脂事業と業務用チョコレート事業に分割。18年度は遡及修正済み。

#### ■ 営業利益

##### <ポイント>

業務用チョコレート事業は減益となったが、植物性油脂事業、乳化・発酵素材事業、大豆加工素材事業で増益となり、前年同期比7億円の増益となった。3Q累計の営業利益としては過去最高となった。

##### <セグメント別>

#### 植物性油脂

日本、米州にてCBEの販売が堅調に推移したことや、原料相場の安定推移により、欧州等での採算が改善し増益。

#### 業務用チョコレート

欧州、日本は堅調も、Blommerの先物評価影響、またブラジルでの需要期の販売減、レアル安による原料コスト増により減益。

#### 乳化・発酵素材

日本でのクリーム等の販売が堅調に推移したことに加え、東南アジアでの調製品事業の採算性が前年より改善し増益。

#### 大豆加工素材

機能剤の減益はあったが、大豆たん白素材、大豆たん白食品の販売が堅調に推移し増益。

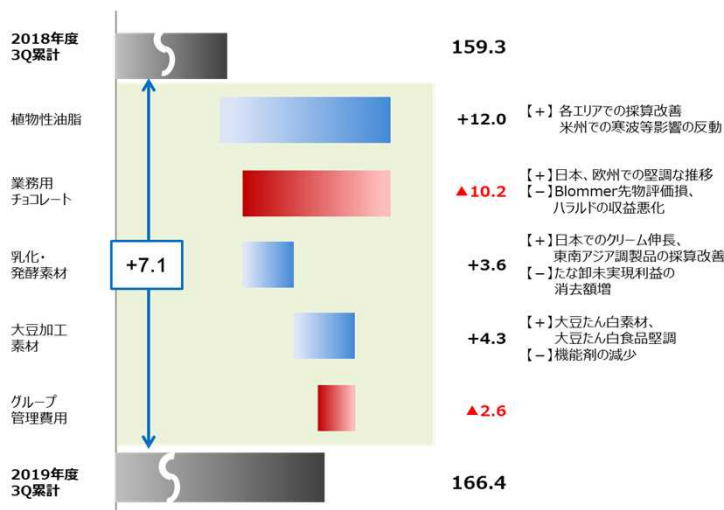
#### ■ 親会社株主に帰属する四半期純利益

前期の減損損失、災害による損失の反動に加え、旧堺工場の売却益、投資有価証券売却益により増加。

#### ■ CCC

Blommerの連結により118日に増加、Blommerの影響除けば105日。

### 2019年度第3四半期累計 営業利益増減分析



	FY18 3Q累計	FY19 3Q累計	増減額	要因分析
業務用チョコレート	67.1	56.9	▲10.2	
日本	48.4	52.4	4.0	菓子向けが堅調に推移
米州	10.3	▲7.0	▲17.2	
・Blommer、ハラルト			2.3	Blommerは、高付加価値品が伸長。 ハラルトは、2Q以降販売数量は回復したものの、繁忙期であるイースター商戦の1Qの販売減少、レアル安などによる採算性低下などにより減益。
・Blommer先物評価損益影響額			▲19.5	2Q累計▲16.2 3Q3ヶ月:▲3.3
東南アジア	6.4	7.0	0.6	
中国	0.7	0.7	0.1	
欧州	1.7	3.6	1.9	販売堅調
連結調整	▲0.4	0.1	0.5	

### ◆3. 連結 貸借対照表

(単位：億円)

	18年度 期末(*調整後)	19年度 3Q末	前期末比	主な増減要因
流動資産	1,854	1,802	▲52	原材料及び貯蔵品の減少
固定資産	2,051	1,999	▲52	のれんの減少、投資有価証券の減少
繰延資産	-	3	+3	
資産合計	3,905	3,804	▲102	
有利子負債	1,605	1,566	▲38	短期借入金の減少
その他負債	708	644	▲65	仕入債務、未払金の減少
負債合計	2,313	2,210	▲103	
純資産合計	1,592	1,594	+2	

\* 2019年度第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、

2018年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容へ遡及修正。

### ◆4. 連結 キャッシュ・フロー

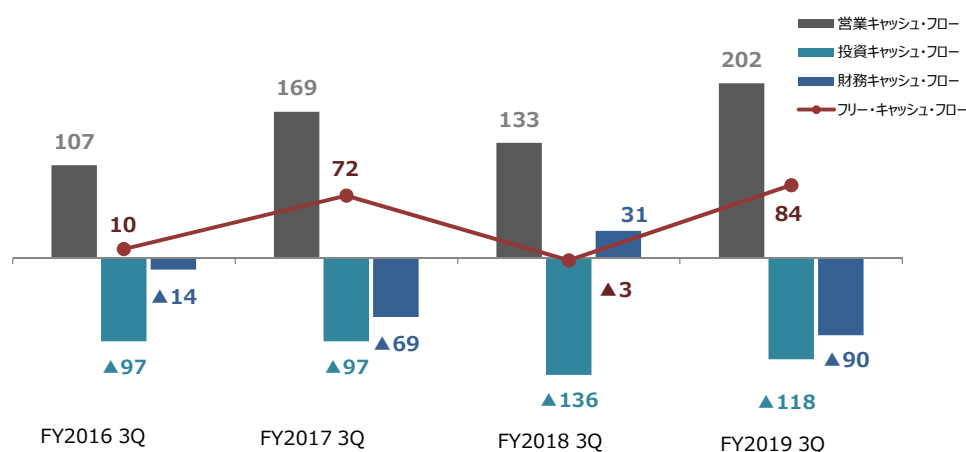
(単位：億円)

	18年度 3Q累計	19年度 3Q累計	前年同期比	主な増減要因
税金等調整前四半期純利益	124	171	+46	
減価償却費	84	107	+23	
のれん償却費	5	17	+12	
他増減	▲81	▲93	▲13	
営業キャッシュ・フロー	133	202	+69	
投資キャッシュ・フロー	▲136	▲118	+18	
フリー・キャッシュ・フロー	▲3	84	+87	
借入金等による調達・返済	130	▲39	▲169	有利子負債の減少
配当金支払等その他	▲99	▲52	+47	
財務キャッシュ・フロー	31	▲90	▲121	
現金及び現金同等物増減額	22	▲13	▲35	
現金及び現金同等物残高	152	200	+48	

(注) 減価償却費には、有形固定資産及び無形固定資産等の償却費を含めています。

### キャッシュ・フロー (3Q累計)

(単位：億円)



## ◆5. 連結指標

(単位：億円)

	18年度 3Q実績	18年度 実績	19年度 3Q実績	19年度 期初予想	19年度修正予想 (*2)(19年11月)
EBITDA	240	300	285	392	-
設備投資額	124	159	109	220	-
減価償却費	77	110	89	107	-
有利子負債	694	1,605	1,566	1,535	1,555
NET有利子負債	542	1,392	1,366	1,366	1,355
NET運転資本	586	171	817	745	-
NET有利子負債/EBITDA	1.7	4.6	3.6	3.5	-
1株当たり純資産	1,820円	1,820円	1,823円	1,954円	-
自己資本比率	56.4%	40.1%	41.2%	42.7%	-
D/ELシオ	0.44	1.03	1.00	0.91	0.97
Net D/ELシオ	0.34	0.87	0.81	0.80	0.79
営業キャッシュフロー	133	226	202	320	-
フリーキャッシュフロー	▲3	▲565	84	101	-
ROE	7.6%	7.3%	10.2%	9.4%	10.7%
ROA	7.6%	5.5%	5.3%	5.7%	6.2%
売上高営業利益率	7.0%	6.2%	5.7%	5.6%	5.9%
CCC	108日	105日(*1)	118日	105日	106日

(注)・減価償却費は有形固定資産の減価償却費を、純資産は非支配株主持分を除いた普通株式に係る純資産額を表示しています。

・D/ELシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本 ・Net D/ELシオ = Net有利子負債 (有利子負債 - 現預金) ÷ 株主資本

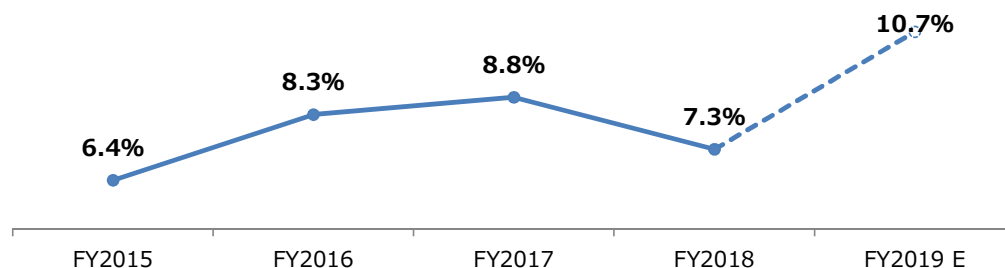
・ROE = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 自己資本 (期首と期末の平均値)

・ROA = 経常利益 ÷ 総資産 (期首と期末の平均値)

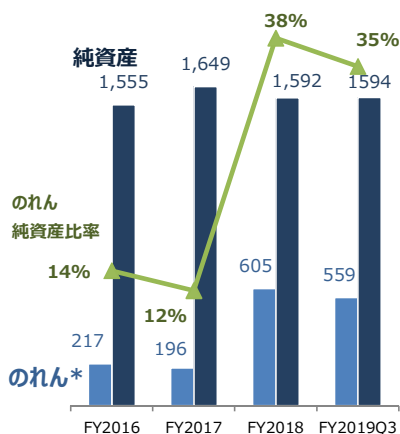
(\*1)2018年度のCCCはBlommerを除く既存事業。

(\*2)Blommer、INDUSTRIAL FOOD SERVICES(以下、豪州IFS)を除く海外グループ会社の決算期変更(12月→3月)に伴う15ヶ月決算を反映。

### ROE

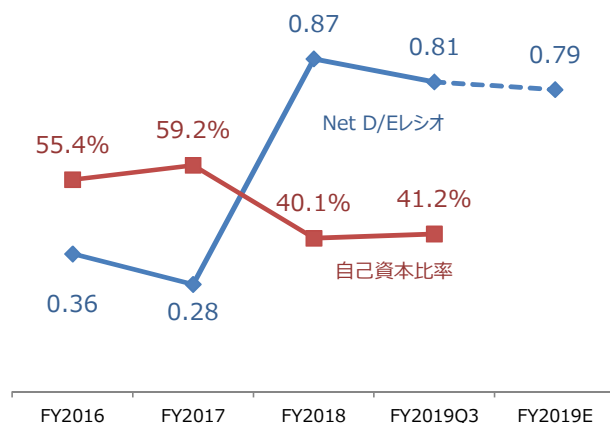


### のれん純資産比率 (単位：億円)



\*のれんは広義ののれんを使用

### Net D/ELシオ 自己資本比率



## ◆6. 2019年度通期業績予想

### 2019年度通期業績予想(19年11月修正)

		18年度	19年度	19年度	19年度	19年度
		実績	期初予想 (12ヶ月ベース)	修正予想 (12ヶ月ベース)	15ヶ月予想 に追加の海外 3ヶ月分	修正予想 (15ヶ月ベース)
売上高	植物性油脂	1,097	1,139	983	156	1,139
	業務用チョコレート	686	1,874	1,783	91	1,874
	乳化・発酵素材	865	915	854	61	915
	大豆加工素材	361	372	365	7	372
	合計	3,008	4,300	3,985	315	4,300
営業利益	植物性油脂	81	91	90	10	100
	業務用チョコレート	74	103	95	9	103
	乳化・発酵素材	33	43	45	4	50
	大豆加工素材	33	41	40	1	41
	連結調整・ グループ管理費用	▲37	▲38	▲39	-	▲39
	合計	185	240	230	25	255
営業利益率		6.2%	5.6%	5.8%	-	5.9%
経常利益		182	220	217	23	240
親会社株主に帰属する当期純利益		116	152	152	18	170

#### ■営業利益

##### <ポイント>

海外事業（Blommer、豪州IFS除く）の決算期変更に伴い、営業利益計画を240億円から、255億円に修正。（12ヶ月ベースの計画は240億円から230億円に修正）

業務用チョコレート事業で、Blommerの販売数量の減少、ハラルドの採算性の低下を見込むもの、植物性油脂事業や大豆加工素材事業の堅調な推移を見込む。

##### <セグメント別>

##### 植物性油脂

採算性を重視した販売の継続に加え、チョコレート用油脂の堅調な販売、及び、北米での寒波・ハリケーンの影響がなくなることによる伸長などを見込む。

##### 業務用チョコレート

Blommerの下期での販売数量の減少、ブラジルでのレアル安などによる採算性の低下は見込むもの、Blommer買収費用の減少に加え、日本、欧州での伸長を見込む。

##### 乳化・発酵素材

日本でのクリームなどの販売伸長、調製品事業の前年比での業績改善などを見込む。

##### 大豆加工素材

大豆たん白素材、大豆たん白食品の採算性改善、販売伸長を見込む。

※19年度修正予想(12ヶ月)は、海外連結子会社の1月から12月の12ヶ月を反映。尚、Blommerは2月から1月の12ヶ月を反映。

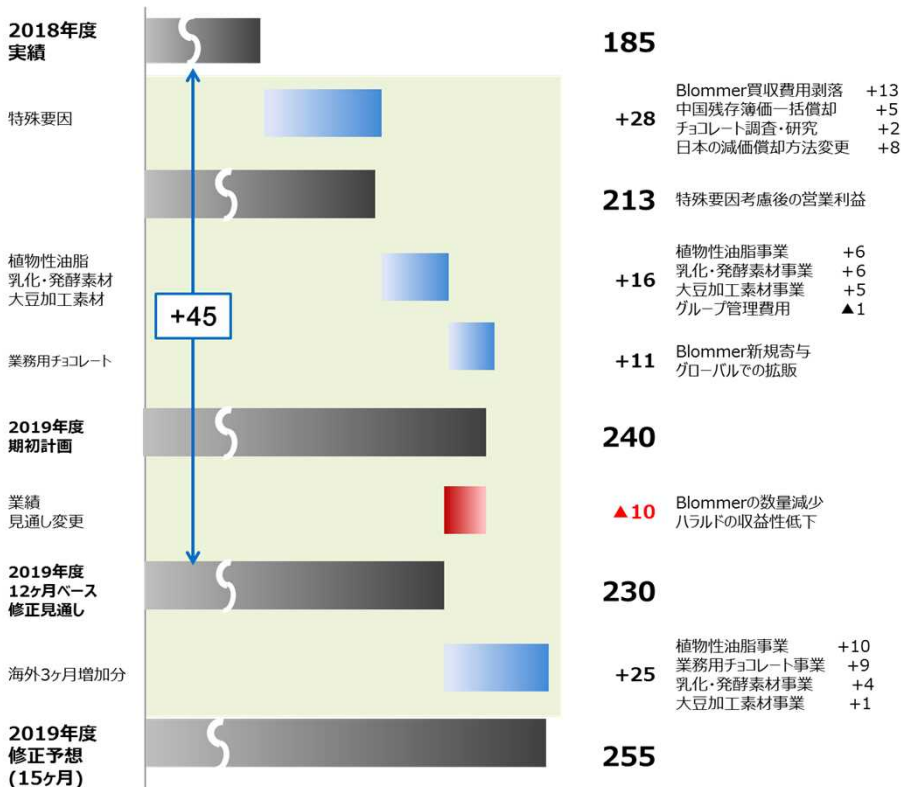
19年度修正予想(3ヶ月)は、海外連結子会社(Blommer、豪州IFSを除く)の決算期変更(12月→3月)に伴う3ヶ月間(1月から3月)の増加額を反映。

19年度修正予想(15ヶ月)は、海外連結子会社(Blommer、豪州IFSを除く)の決算期変更(12月→3月)に伴う15ヶ月決算を反映。

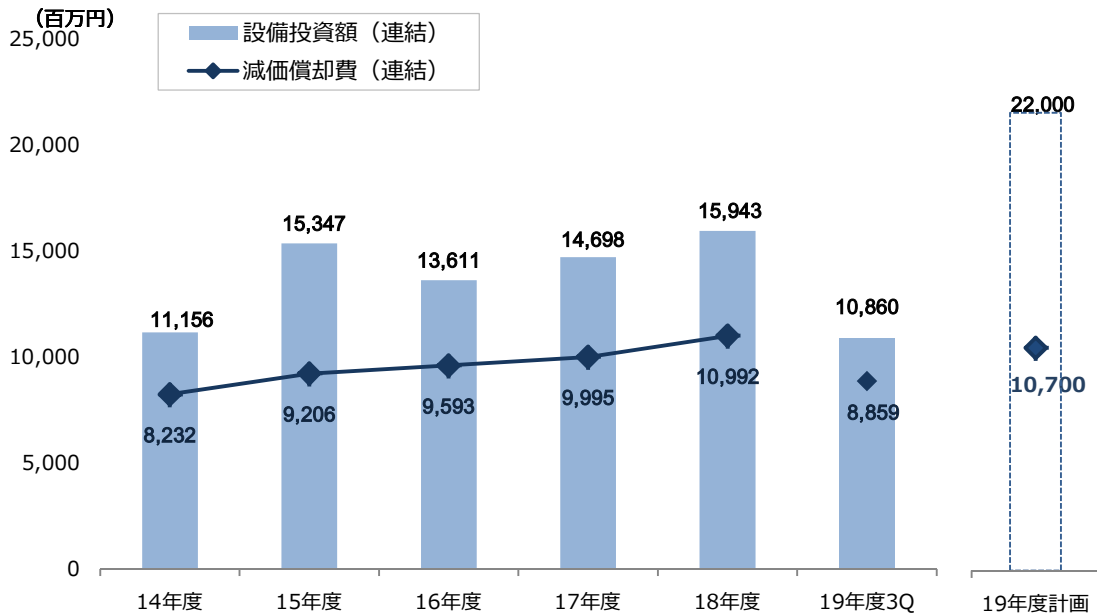
19年度にセグメント変更を実施。製菓・製パン素材事業を、業務用チョコレート事業と乳化・発酵素材事業に変更。

また、セグメント名を油脂事業を植物性油脂事業、大豆事業を大豆加工素材事業にそれぞれ変更。

### 2019年度営業利益増減分析

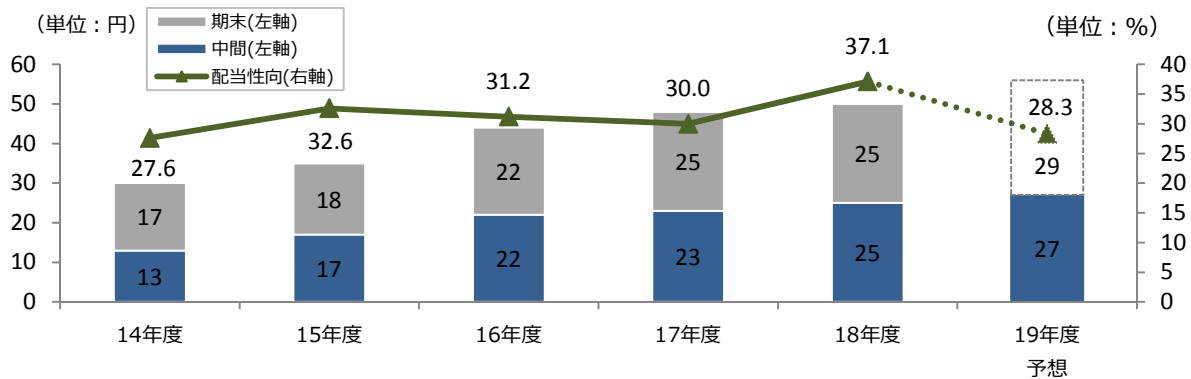


## ◆7. 設備投資額・減価償却費の推移



2019年度3Q累計実績		2019年度計画(期初計画)	
設備投資	109億円	設備投資	220億円
<主な投資内容>		<主な投資内容>	
・北米 油脂 新拠点設立	20億円	・北米 油脂 新拠点設立	51億円
・Blommer 設備投資	9億円	・Blommer 設備投資	13億円
・日本 粒状大豆たん白工場	1億円		
減価償却	89億円	減価償却	107億円

## ◆8. 配当の推移



	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度 予想
中間	12	12	13	13	17	22	23	25	27
期末	12	13	13	17	18	22	25	25	29
合計	24	25	26	30	35	44	48	50	56
配当性向	24.9%	25.8%	27.4%	27.6%	32.6%	31.2%	30.0%	37.1%	28.3%